

令和4年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校池田校舎

1 附属高等学校池田校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校池田校舎

(2) 所在地

大阪府池田市緑丘1-5-1

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員480人(1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

483人(男子256人・女子227人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 1人
教諭 26人(うち, 臨時的雇用2人, 再雇用職員2人), 非常勤講師 14人, AET 1人
事務職員 3人(事務補佐員2人, 教務補佐員1人)

2 附属高等学校池田校舎の特徴

本校は1956(昭和31)年4月に創設された。本校の特色は、60数年の歴史の中で培われた自由・自主・自律を尊ぶ校風のもとで生徒一人ひとりの個性を大切にしながら質の高い教育を行っていることにある。国際教育にも力を入れており、2004年1月にユネスコスクールに登録され、アジアや北欧の高校生とESDをテーマとした学びの交流を続けている。

2020年4月にWWLコンソーシアム構築支援事業の共同実施校に指定され、拠点校である平野校舎とともに、「Society5.0に向かう生徒と教員のための『学びの共同体』の構築」を目的として「データサイエンスに基づくイノベティブなグローバル人材育成システムの開発」に取り組んでいる。「グローバル探究」や「データサイエンス基礎」、「イノベティブシンキング」などの学校設定科目のカリキュラムと評価方法の開発等を行い、2022年からは毎年、高校生国際会議を開催して国内外の連携校の高校生・教員と探究活動の成果を通じた交流と研修を行っている。

また、近年は生徒1人に1IDを付与するなど教育の情報化に積極的に取り組んでおり、令和3年度入学生からはBYADを開始し、ICT機器の活用場面を増やすことで、より一層の推進を図っている。

2022年3月にはSPSの認証を受け、学校安全に高校生が主体的に取り組む活動を推進している。

3 附属高等学校池田校舎の役割

- ① 基礎学力を充実させる普通教育を行う。
- ② 大学学部の学生の教育実習を指導する。
- ③ 教育研究校・教育実践校として教育研究を進める。

4 附属高等学校池田校舎の学校教育目標

- ア) 自由・自主・自律の精神に富み、個性豊かな生徒を育てる。
- イ) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育てる。
- ウ) 国際性豊かで、平和を希求する生徒を育てる。

5 附属高等学校池田校舎の学校教育計画

- ア) 基本的な生活習慣の確立をはかり、生きる力を育成する。
- イ) 学力の充実をはかり、主体的に学習する態度を育成する。
- ウ) 生徒の個性を尊重し、自己実現できる機会を与える。

6 附属高等学校池田校舎の令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<p>ア) 自由・自主・自律の精神に富み, 個性豊かな生徒を育てる。</p> <p>イ) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育てる。</p> <p>ウ) 国際性豊かで, 平和を希求する生徒を育てる。</p>
学校教育計画	<p>ア) 基本的な生活習慣の確立をはかり, 生きる力を育成する。</p> <p>イ) 学力の充実をはかり, 主体的に学習する態度を育成する。</p> <p>ウ) 生徒の個性を尊重し, 自己実現できる機会を与える。</p>

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) グローバル化した社会で課題解決に向けてイノベティブに思考し, 主体的に実践できる力を育成するためのカリキュラムを連携機関と協働して開発し, 広く発信する。	WWLの学校設定科目「グローバル探究I, II」, 「イノベティブシンキング」, 「データサイエンス基礎」, 「データサイエンス」等を実施する。	「グローバル探究I, II」は, その成果を高校生国際会議などで外部発表し, 一定の評価を得た。「同III」を履修した3名は探究の成果を自らの進路実現に結びつけた。「イノベティブシンキング」選択者12名, 「データサイエンス」選択者17名は皆, 意欲的に取り組んだ。	「グローバル探究III」を履修させることの意義が, 生徒・教員にまだ浸透していない。卒業生に後輩の指導に協力してもらうことを検討する。	A	対面での発表の機会があると, 達成感もあり, また各自の振り返りが深まって良い。成果を進路に結びつけることも重要。働き方改革の推進に伴うカリキュラムの開発が課題である。	A	探究活動では外部への成果発表を通じて得られる学びもあり, さらに探究・学習への意欲が高まると考えられるので, 教員から生徒に外部での発表をより強く推奨する。

<p>(1) グローバル化した社会で課題解決に向けてイノベティブに思考し、主体的に実践できる力を育成するためのカリキュラムを連携機関と協働して開発し、広く発信する。</p>	<p>高校生国際会議を大阪教育大学、平野校舎、連携校と協力して実施する。</p>	<p>高校生国際会議を対面で実施したことで、高校生同士の交流を深めることができた。海外連携校からの参加もあり、ポスター発表や口頭発表、シンポジウムなどを通して、多くの生徒が国際会議を体験することができた。</p>	<p>次年度は海外連携校からの来日参加も考えられるので、できるだけ早く実施体制を整え、プログラムについても再検討する必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>国際会議の分科会の司会など運営面にも参加できたのは高校生にとって良い経験であった。 海外の高校生・留学生と英語で議論する機会を増やすことが大切だろう。</p>	<p>A</p>	<p>次年度の国際会議では来日する学校が複数あることを想定して、計画的に準備を進める。会議当日の発表・運営だけでなく、それに向けた準備や交流も学びの機会と捉えて、生徒に参加を促す。</p>
	<p>海外研修として可能であれば「ベトナム研修」や「カナダ研修」、「シンガポール研修」を実施する。</p>	<p>「ベトナム研修」はハノイ大学の教員・大学生の協力を得て、2年生7名、教員2名で7月21日～29日に実施した。「カナダ研修」は1年生18名、2年生2名、教員2名で3月21日～31日に実施する。</p>	<p>次年度の「ベトナム」研修は「イノベティブシンキング」受講者以外の参加も認める方向で検討する。</p>	<p>A</p>	<p>海外研修が実施できて良かった。参加者は女子が多いとのことだが、男子にも積極的な参加を促して欲しい。</p>	<p>A</p>	<p>海外研修で学んだことを探究活動と結びつけるように指導する。次年度も実施が見込めることから、探究テーマ設定の段階から海外研修を意識させる。</p>
	<p>アセスメントグループに PROG-H テストや AAR テストの結果を提供することで、資質・能力の評価方法の研究開発に取り組む。</p>	<p>大阪教育大学の仲矢教授らのアセスメントグループが各種テストや調査を分析した結果、WWL 事業に積極的に参加した生徒の方が3年間での資質・能力の伸びが大きいことが確認された。</p>	<p>PROG-H テストや AAR テストの結果を生徒自身の自己理解や、学級担任の生徒理解に活用できるようにする。</p>	<p>A</p>	<p>評価指標の開発・研究によって、取り組みの成果が定量的に評価できるようになったのは良い。 分析の結果がカリキュラムの開発と指導方法の改善に生かされることを期待する。</p>	<p>A</p>	<p>生徒の PGOG-H テストの結果や WWL 事業への取り組み状況等を学級担任が把握し、日常的な生徒理解に活用する。</p>

<p>(2) ユネスコスクール (ASPnet) として、国内外の学校と持続発展教育 (ESD) や多文化理解の協同実践に努めることを基盤に置き、国際教育を推進する。</p>	<p>海外の ASPnet 校と交流を深める。</p>	<p>今年度は韓国サンダン高校とのオンライン交流を生徒が企画し、10名が参加して12月に3日間実施した。当日は“Creation of our future based on mutual understanding ~ Let's broaden our horizons and understand each other's thoughts~”(「相互理解の基づく未来の創造～視野を広げて、私たちの思いを理解し合おう～」)をテーマに交流した。</p>	<p>生徒達はオンライン会議にも慣れ、事前交流やプログラムを工夫したことで対面に近い成果が得られた。次年度はサンダン高校の来日を予定している。</p>	<p>A</p>	<p>韓国の高校との交流を高校生が企画して実施できたことは大変良い。相互に英語で議論できたことも素晴らしい。交流の成果を他の生徒に還元する方法を工夫して欲しい。次年度は対面で交流できることを期待する。</p>	<p>A</p>	<p>次年度はサンダン高校を本校に招くことを想定して準備を行う。長年のユネスコスクール同士のつながりを大切に、共通の課題について、互いの考え方の違いや共通点について親近感を持って知る機会にしたい。</p>
	<p>ユネスコスクールとして、大阪・関西 ASPnet の活動に貢献する。</p>	<p>「近畿・北陸地域 ASPnet 校・SDGs 関連団体による ESD/SDGs 学びあい交流会 (3回のワークショップ)」に1年生2名、2年生2名が参加した。</p>	<p>学校外での学びの成果を校内で共有する方法・機会を考える必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>学校外のような立場の人と共通のテーマで交流できたことは大変良い。学んだ成果を他の生徒にも還元して欲しい。</p>	<p>B</p>	<p>大阪・関西ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク主催の学びあいの機会を、本校の教育活動に関連付ける方を検討する。</p>
<p>(3) セーフティ・プロモーション・スクール (SPS) 認証校として、学校安全推進センターと連携しながら、安全教育、安全管理、安全連携について研究と実践を行う。</p>	<p>学校安全管理マニュアル等の見直しや研修を通して教職員の安全意識の向上を図る。</p>	<p>避難訓練や防犯訓練において問題点を見出し、改善すべき点の整理を行った。「事故発生時対応マニュアル」の完成度を高めた。上履きを靴に変える教職員も増え、教職員の防災・防犯に対する意識は向上している。</p>	<p>役割分担上、事故発生時の緊急通報や、家庭連絡の役割を経験できる教員数が限られている。役割分担の在り方を見直す必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>救命講習や各種訓練を行い、学校安全の充実に取り組んでいることは大変良い。池田地区附属学校の共通テーマであることから、附属池田小・中との連携を進めて欲しい。</p>	<p>A</p>	<p>学校安全マニュアルをさらに実効性のあるものに改訂するとともに、附属池田小・中学校との連携を深め、共同で避難訓練等を行うようにする。各種の緊急対応時における ICT の活用方法を検討する。</p>

<p>(3) セーフティ・プロモーション・スクール (SPS) 認証校として、学校安全推進センターと連携しながら、安全教育、安全管理、安全連携について研究と実践を行う。</p>	<p>SPS サポーター制度を活用して、高校生の学校安全への主体的な参加を促す。</p>	<p>安全点検を教員と生徒で行うことや、SPS サポーターが防災・防犯訓練の企画に参画することなどを通じて、生徒の学校安全への意識は少し変化した。次年度はヒヤリハットシステムの運用にも参加する予定である。また、生徒の意見を参考に3階窓に落下防止柵をつけ、下足室にスピーカーを設置した。</p>	<p>生徒の学校評価では教育環境の安全面に対する評価が低いことから、生徒目線での環境改善に関する提案や要望を取り上げる必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>生徒が学校安全の推進に主体的に参加するのは大変良い。行事や部活動以外の場面での防災や防犯、交通安全などについて関心を高めることは難しいかもしれないが、ぜひ定着させて欲しい。</p>	<p>A</p>	<p>SPS サポーターとなった生徒が自身の探究活動と結びつけることで、学校の様々な安全に関する課題やその解決方法を見出すことができると思われる。「グローバル探究」のカリキュラム開発担当者と連携して検討を行う。</p>
	<p>数少ない高校でのSPS 認証校としての役割を果たす。</p>	<p>SPS 認証を目指す学校への情報提供や実践事例の紹介の機会として、学校訪問1件と、発表2件を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問（視察）（12月8日） 宮崎県教育庁人権同和教育課主催 指導主事3名，教諭2名 ・「学校安全実践力向上セミナー・学校安全ワークショップ（12月9日，岡山市）」 ・「第3回学校安全推進センターフォーラム（3月3日，本学）」 	<p>今年は主にSPS 認証に向けての取り組み事例を発表したが、これからはSPSの「7つの指標」に基づき評価・改善している状況の報告が求められることから、今後も継続的なSPS活動の実践が必要である。</p>	<p>A</p>	<p>SPS 認証校になって、学校安全が進むと同時に、外部に発信する機会が増えたことは素晴らしい。PTA や地域とも協力が進むようにして欲しい。学校の特色である、生徒の主体性を生かしたSPS活動を推進して欲しい。</p>	<p>A</p>	<p>高校生が学校生活の安全、地域・社会の安全、世界の安全に対して課題意識を持って取り組むよう、SPSの活動と探究活動や生徒会活動とを結びつける。学校安全への取り組みを「グローバル探究」と関連付けることを関連する校務分掌で検討する。</p>

<p>(4) 生徒一人一人の個性を伸ばし主体性、協働性、創造性を育むために、教科外の活動を含む全ての学習機会を通じて、個人及び集団としての在り方を考えさせる指導を充実させる。</p>	<p>生徒会行事について、健康・安全を最優先としつつ、過去の経験を生かして、実施可能な案を計画・実施させる。</p>	<p>コロナ禍での附高祭も3回目となった。今年は、人数制限を行った上で来校者の在校時間を2時間程度に限ることで一般公開を実施した。クラス創作を3年ぶりに実施できたことで、次年度以降、附高祭の在り方を考えるための良い経験になったと思われる。</p>	<p>附高祭では、熱中症対策が極めて重要である。また、夜遅い時間にオンラインを活用して練習することで健康面への影響が心配される。</p>	B	<p>コロナ禍の影響を受けながらも一般公開を安全に実施できたことは素晴らしい。先輩から後輩へと引き継がれてきたものの一部が断絶したことも、新しく作っていく機会と前向きに捉えれば良い。</p>	A	<p>教職員の働き方改革の推進と、生徒の自主的・自律的な創作活動の機会の保障をどのように両立させるかは難しい課題である。活動の質的向上を図ることで両立する方法を学校全体で検討する。</p>
	<p>研修合宿(1年)、修学旅行(2年)について、旅行委員を中心に企画・運営させる</p>	<p>研修合宿を3年ぶり実施することができ、新入生には相互理解を深める良い機会となった。修学旅行を9月末に実施したが、好天に恵まれ、健康・安全に全ての行程を実施できた。</p>	<p>働き方改革により、宿泊行事中の勤務時間について、改めて教職員・管理職で確認する必要がある。</p>	A	<p>宿泊行事は生徒にとって大切な経験となるので、安全に実施できて良かった。以前にも増して先生方の負担が大きいと思うが継続して欲しい。</p>	A	<p>宿泊行事の準備、実施を通して、旅行委員の指導力等を育むことや、生徒同士が互いに尊重し、協力し合う姿勢が養えるよう、適切に指導する。</p>
<p>(5) 探究的な学習活動に必要な多面的な情報活用能力を育成するために、図書館の利用を含めた様々な方策について研究と研修を行い、その成果を広く発信する。</p>	<p>教育活動におけるICTの一層の活用に向けて、授業等での活用方法の研究と校内での普及活動を行う。</p>	<p>1,2年生が各自のクロームブックを授業や様々な教育活動に活用するようになった。また、感染症等で登校できない生徒に対しても、各教員がGoogle Meetで授業を配信することが日常のこととして定着した。</p>	<p>教育活動におけるICT活用は生徒・教員とも一定の水準に達している。今後は各科目で「情報の活用」について踏み込んで考える必要がある。</p>	B	<p>「教育の情報化」が確実に推進されているのは良い。学習のツールとして定着したら、次の段階として、教育の質的な変化を推進できるように、教科教育や探究学習の方法について研究して欲しい。</p>	B	<p>授業でのICT活用の推進によって、生徒の学びの質にどのような変化・影響が出ているか検証が必要である。また、「情報の活用」に関して、教科教育や探究学習の指導の中で積極的に取り組むことが必要である。</p>

<p>(5) 探究的な学習活動に必要な多面的な情報活用能力を育成するために、図書館の利用を含めた様々な方策について研究と研修を行い、その成果を広く発信する。</p>	<p>教育活動に必要なICT機器や施設・設備の充実を図る。</p>	<p>WWL事業の推進や、感染症対策としてのオンライン授業充実のために購入したICT機器類を有効利用するため、メディアセンターのメディア工房にそれらを集約して保管し、教職員に利用の仕方などについて周知した。 生徒の読書量を増やすため、電子図書館の利用について、生徒に繰り返し周知を図った。</p>	<p>高校生国際会議等で必要なノートPCが不足している。必要十分な数を確保するよう予算化する必要がある。また、生徒の読書離れが著しいことへの対策が必要である。</p>	<p>B</p>	<p>オンラインを活用した教育に必要な設備や備品等が充実し、教育環境が整ってきたことは大変良い。今後も必要な予算を確保することが重要である。 読書量の低下による学力の質の変化が懸念される。対策をお願いしたい。</p>	<p>A</p>	<p>情報化推進委員会の役割については、その時々状況に応じて見直す必要がある。 次年度については、CAV室の更新に関連して、「生徒・教員の情報活用能力の向上」を課題として取り組む。読書量の改善もこの文脈に位置づけたい。</p>
<p>(6) 池田地区小中学校とともに、国際的見地から解決が必要な教育課題に取り組み、公教育の将来像を切り拓く拠点となることをめざす。</p>	<p>小中との連携を図り、共通テーマのもと、高校のサブテーマを設定して公開授業を実施する。今年度は各校独自開催で公開授業と協議会を行い、他校種の授業を積極的に見学して、相互理解を深める。</p>	<p>共通テーマ「社会とつながり、明日を切り拓く資質・能力の育成」のもと、高校は「自身の学びの変容を一人ひとりが自覚できる授業ーグローバル市民の育成をめざしてー」をサブテーマに、現代文(2年)、物理基礎(1年)、地理総合(1年)、グローバル探究I(1年)の授業を公開し、協議会を行った。</p>	<p>一般見学者も多数あり、協議会でも有意義な意見交換ができた。附属池田小・中学校の教員も多数授業見学に来られた。 今回の相互交流を次年度以降にどのように生かすかが課題である。</p>	<p>B</p>	<p>公開授業を通じて学校の良さを外部に発信することは大切である。 長年、附属池田小・中学校とは連携・協力が必要と言いつつもそれぞれの事情があり、深めることができていなかった。今回、相互に授業見学を行ったことをきっかけに、実現可能なことから、連携・協力をさらに進めて欲しい。</p>	<p>A</p>	<p>池田地区附属学校3校が共通した方針(地区のスクールポリシー)のもとに教育に取り組んでいることを外部に対して発信できるように研究会のテーマを設定する。また、公開する授業では、それを具現化することを意識する。 交流人事で着任した教員にも教育研究を体験してもらうために、積極的に取り組んでもらう。</p>

<p>(6) 池田地区小中学校とともに、国際的見地から解決が必要な教育課題に取り組み、公教育の将来像を切り拓く拠点となることをめざす。</p>	<p>池田地区附属3校が連携して児童生徒にどのような資質・能力を育もうとしているのかをスクールポリシーと関連づけてまとめる。 また、それと関連させて、小中、中高の間での連絡入試の在り方についても検討する。</p>	<p>池田地区3校のスクールポリシーを相互に確認し、各校の特色や育もうとする資質・能力を「安全教育」と「国際教育」を柱としてまとめ、3校での継続性・発展性を概念図にまとめた。 これらを踏まえて、各校管理職、主幹教諭、研究部長、教務部長を構成員として、池田地区の将来構想について議論を始めた。</p>	<p>本校でも育成を目指す資質・能力を明確にし、それを実現するためのカリキュラムを開発する必要がある。 教育研究の成果をリニューアルしたHPを活用して発信することが必要である。</p>	<p>B</p> <p>高校がどのような資質・能力をもった生徒を育てようしているか附属池田小・中学校の先生方にも理解してもらうことは大切で、児童生徒が連絡進学を考える際にも影響すると思われる。 また、各校のスクールポリシー（特にアドミッションポリシー）に照らして、連絡入試の在り方を見直すことが必要である。</p>	<p>B</p> <p>池田地区附属3校が連携・協力して、児童生徒にどのような資質・能力を育もうとしているのか、外部から見てもはっきりわかるような形で、3校揃って発信することが求められている。 池田地区の将来構想を議論しつつ、2年あるいは3年後に向けて中高の連絡入試の在り方を見直し、外部に対しても適切な形で情報を発信する。</p>
---	--	---	--	---	--